

令和5年10月31日

東員町議会 議会運営委員会

委員長 中村 等 様

東員町議会 議会運営委員会
委員 広田 久男

研 修 報 告 書

研修期間	令和 5 年 10月18日 (水) ～10月19日 (木)【 2日間】
研修 (視察) 先	10月18日・・・京都府精華町議会 10月19日・・・京都府久御山町議会
目的 (テーマ等)	通年議会・議会改革について
参加議員名 (複数の場合)	(議長)山本陽一郎、(委員長)中村 等、(副委員長)大崎昭一、 (委 員)大谷勝治、川瀬孝代、広田久男、山崎まゆみ
資料添付の有無	有 ・ ④無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

≪研修概要、内容≫

10月18日(水) 京都府精華町議会

1. 研修概要

- ・精華町議会は、2020年度第15回マニフェスト大賞において「優秀躍進賞」を受賞、また、2019年度議会活性化調査ランキングでは総合19位に入り、議会改革(活性化)を積極的に推進している町議会です。その活動内容を伺ってきました。
- ・**「まず、一度やってみよう」**
の精神で取り組んでいます。改革は、まずやってみて、それが成功すれば本格実施に移し、逆にマイナスだったなら元の形に戻してきました。
- ・**「開かれた精華町議会」**
を実現するため、「町民参加・町民との協働」「情報公開・説明責任」「議会権能の発揮」「政策提言・提案」の4点を柱とする議会基本条例を平成22年に制定しました。(詳細省略)
- ・**「住民と共に学び、共に考え、共に実践する」**
をモットーとして住民参加の研修会(会場は本会議場)、ワールドカフェ方式による意見交換会(対面方式は対立意識が強くなる)、町のイベント「せいか祭り」に議会ブースを出展するなど、議会を身近に感じてもらうための活動を活発に行っています。
- ・**「通年議会制による委員会活動の活性化」**
を主目的として平成27年に導入。議会閉会中の委員会活動はテーマを決めて行う必要があるが、本来は委員会の所管事項を通年で自由に何でもできるのが適当であるとの考え方です。

2. 所感

- ◆議会は住民自治の基盤です。議員歴4年を経過して感じていることは、住民に身近であるべき議会が住民の理解と関心を得られていないということです。
では、どうすれば住民の理解を得られるのか、精華町議会では前項に報告した**「まず、一度やってみよう」・「住民と共に学び、共に考え、共に実践する」・「通年議会制による委員会活動の活性化」**など、積極的に議会の活性化し住民参画を促している諸活動は見習うべきだと思います。
- ◆精華町議会において現在検討中である①議会モニター、②議会サポーター制度などは、本町議会においても活性化をはかるため検討すべきであると感じました。
- ◆結論としては、議会が変わるには今とは違うことをやらないといけない。ということだと判断しました。
一例ですが、自分が担当する「議会だより」は、少しずつですが編集や校正を変えて、また、直接まちに出かけて住民の声を聴く特集ページの取り組みなど、「見やすくなった・読みやすくなった」など、住民評価が上がっているのを実感しています。

以上

10月19日(木) 京都府久御山町議会

1. 研修概要

令和3年より通年議会制を本格導入した久御山町議会に伺い、導入の経緯や経過などについて説明や意見交換をしてきました。

- ・通年議会の導入により、定例会の会期を概ね1年間とし、会期中は必要に応じ議会の判断でいつでも会議を開くことができます。
- ・従って、閉会中に町長が専決処分していた議案などは迅速に再開し審議できるため、専決処分が減り、議会のチェック機能が強化できます。
- ・また、1年間を会期とすることで、委員会をいつでも開くことができ、委員会機能の強化にもつながります。

など、通年議会制についての説明を受けました。

2. 所感

◆久御山町議会は通年議会を導入して年数が少ないこと、また、今年4月に選挙が行われて新体制になったことが影響しているのか、通年議会制の確たる手ごたえは伝わってきませんでした。

◆終盤に議会運営委員長が発言された内容に共感しました。

「最大の課題は、議会改革のパフォーマンスでは終わらせないことです。住民に議会が変わったと言ってもらえるようにしなくてはならない。ここが問題です。」
同感です。住民に開かれた議会であるか、住民との交流は十分か、議会報告会・意見交換会は楽しいか、住民に信頼と協力を得られているかなど、この辺りの問答をイエスと答えられるように、しっかりと議会運営(委員会運営)を実践することが必要だと判断しました。

以上